

第75回

# 全国産業安全衛生大会

## ご案内

大会テーマ

築こう未来へ

安全と健康でつなぐ

復興の架け橋

# 2016 in 仙台



写真提供：仙台観光国際協会

写真提供：仙台市



東北六魂祭



SENDAI 光のページェント

**新設** 防災・危機管理分科会を新設

開催期間

平成28年10月19日(水)→10月21日(金)

会場

総合集会 10月19日

仙台市体育館

分科会 10月20日・21日

仙台国際センター他 仙台市内各会場

●ISO45001、化学物質のリスクアセスメント、ストレスチェック制度の最新情報等

スペシャルトーク

(総合集会)

故郷と復興への思い



宮城県杜鹿郡  
女川町出身

俳優・歌手  
中村雅俊氏



福島県  
喜多方市出身

フリーキャスター  
唐橋ユミ氏

主催：中央労働災害防止協会 協力：公益社団法人 宮城労働基準協会

後援：厚生労働省、復興庁、経済産業省、国土交通省(予定)、環境省、警察庁、ILO駐日事務所、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、仙台市、一般社団法人東北経済連合会、一般社団法人宮城県経営者協会、宮城県商工会議所連合会、宮城県商工会連合会、宮城県中小企業団体中央会、一般財団法人地方公務員安全衛生推進協会、日本労働組合総連合会宮城県連合会、公益社団法人宮城県医師会、宮城県社会保険労務士会、一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会宮城支部、公益社団法人日本作業環境測定協会東北支部宮城分会、東奥日報社、岩手日報社、河北新報社、秋田魁新報社、山形新聞、山形放送、福島民報社、福島民友新聞社

協賛：建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会、一般社団法人青森県労働基準協会、公益財団法人岩手労働基準協会、一般社団法人秋田県労働基準協会、一般社団法人山形県労働基準協会連合会、一般社団法人福島県労働基準協会

同時開催 入場無料

## 緑十字展2016 in 仙台

～働く人の安心づくりフェア～

期日 10月19日(水)→21日(金)

会場 みやぎ産業交流センター  
(夢メッセみやぎ)

- ◆安全衛生保護具体験道場
- ◆震災対策に係る特別展示
- ◆安全衛生セミナー
- ◆グルメ・物産コーナー

特別企画

## JISHA 中災防

お問合せ先

中央労働災害防止協会 教育推進部 企画課

TEL：03-3452-6402 http://www.jisha.or.jp/

# 防災・危機管理分科会（第1会場）

10:50

事例報告

## 東日本大震災 現場からの証言 復興に向けての課題と提言

(株)深松組  
代表取締役社長

深松 努

東日本大震災発災時のがれき撤去について、当時の混乱した状況の中で仙台市と共に試行錯誤の中で作り出した「仙台方式」について詳細を解説する。

11:20

## 11 災害発生時企業は地域の一員として 何ができるのか。

(株)ヤヨイサンフーズ 気仙沼松川工場  
総務課

吉田 芳幸

工場が立地している場所は準工業地域で民家と工場が混在する地域であり、臭気や騒音の苦情を受けたことも度々あった。そこで、住民との共生を考え工場を津波一時避難場所として提供し、自治会と合同避難訓練を毎年実施していた。東日本大震災のとき訓練通り従業員が素早く誘導し住民40名を救った。

11:40

## 12 東日本大震災からの石巻港復旧の取り組み と震災から得た教訓・防災対策

南光運輸(株)  
港運課 課長

今野 昭一

震災により、本社機能、各種の荷役機械・設備は壊滅的被害を受けた。復旧に際し関係会社・機材メーカーの支援、行政との連携を図り取り組んだ。瓦礫処理時の釘の踏貫きに苦勞した。震災の教訓として、避難場所・連絡方法を再検討、従業員が迅速に避難行動できるよう防災対策を見直した。

(12:00～13:00 昼休み) 13:00

## 13 原町火力発電所復旧工事における安全の 取り組みについて

東北電力(株) 仙台火力発電所  
副所長

工藤 悟志

原町火力は、東日本大震災の津波により壊滅的な被害を受けた。絶望的な状況の中、発電を再開させるため、撤去・更新・修繕工事を同時進行する難作業であったが、災害防止協議会や安全大会の開催等により関係者が心を一つに作業を進めた結果、無事運転開始を迎え作業を完遂できた。

13:20

事例報告

## 東日本大震災からの復興の歩みと企業と 地域のBCP(事業継続計画)について

石巻魚市場(株)  
代表取締役社長

須能 邦雄

宮城沖地震の発生確率は数年以内に90%以上との警告が出ていた。しかし、私に限らず大多数の経営者は何ら対策をしていなかった。貴重な経験から得た教訓はBCPをベースとした「ヒト」づくりである。

13:50

## 14 「共助」企業と企業、企業と地域の繋がり …民間企業の重要な役割

TDF(株)  
総務部 総務課

日下 仁史

揺れと火災により受けた設備被害、少ない食料と物資、停電、断水の中、当社が受けた取引先・関連企業からの支援と当社が行った地域への支援。工場の復旧作業と被災者への支援活動を行い、その中で痛切に感じた思い、感謝・喜び・反省・悲しみを共有すべきと考え発表する。

(14:10～14:20 休憩) 14:20

## 15 震災からの復旧と震災後のBCP再構築 について

東京エレクトロン宮城(株)  
総務部 部長

志村 竜也

震災発生時、東京エレクトロン宮城は松島町で生産活動を行っていた。津波被害はなかったが、揺れにより建屋は甚大な被害を受け生産再開まで2ヶ月を要した。被害直後の初期対応からサプライチェーンを含む生産再開までの対応と震災後に再構築したBCPの考え方について発表する。

14:40

## 16 トヨタ紡織東北株式会社における 防災・震災対策

トヨタ紡織東北(株)  
管理部 環境安全室

高瀬 利男

東日本大震災における被害は、弊社においても甚大なものであり、建屋天井の落下や設備・ロッカーなどの転倒、電気・通信などのライフラインの停止と復旧には時間がかかった。今後、大規模災害が発生した場合に備え、人命・安全確保について、取り組んだ問題や対策について報告する。

15:00

## 17 東日本大震災からの教訓～製造所 における危機管理の取り組み～

YKKAP(株) 東北製造所  
安全衛生管理室 室長

峯岸 修

YKKAP(株)東北製造所は、東日本大震災を経験し、これまでの建屋耐震補強や定期的な避難訓練などに加え、地震に強い新しい建屋の建設と床の耐震改修を行いながら、製造所内のライン再構築を進めている。更なる災害に強い製造所を目指した取り組みを紹介するものである。

15:20

### 施工中現場の被災状況 ①

国土交通省発注 河川築堤工事

被災発生時は仙台市若林区藤塚地区で築堤工事をおこなっていました。築堤場所は釜山産廃埋めの太平洋に面した場所での施工でした。




仙台建設業協会

分科会主催




### 東部道路、津波から住民救う仙台・六郷

東日本大震災で被災した仙台市若林区六郷地区で、多くの住民が地区の東西を貫く仙台東部道路に駆け込み、一命をとり留めた。道路が周辺より高い盛り土構造だったことが幸いした。高速道は指定避難所ではないが、震災時の一時避難拠点として見直されそうだ。2011年04月03日 日曜日 河北新報記事一部転記


Google earth

仙台建設業協会



## 「仙台方式」9つの作業部隊

- |        |                 |
|--------|-----------------|
| ①人命隊   | • 2011.3～7      |
| ②濡れごみ隊 | • 2011.3～7      |
| ③道路隊   | • 2011.4～6      |
| ④車両隊   | • 2011.4～2012.1 |
| ⑤がれき隊  | • 2011.4～2011.7 |
| ⑥解体隊   | • 2011.6～2014.2 |
| ⑦農地隊   | • 2011.7～2012.3 |
| ⑧山ごみ隊  | • 2011.9～2012.5 |
| ⑨搬入場隊  | • 2011.3～2014.3 |



2. 行方不明な建物に基盤の埋め戻し  
基本及びがれき搬去隊 9社  
工期:3月18日～6月30日

3宮城野区道路  
がれき搬去隊 9社  
工期:4月4日～6月30日

4石林区道路がれき搬去隊 9社  
工期:4月15日～6月25日

5宮城野区公園がれき搬去隊  
市民がれき集積所19ヶ所 9社  
工期:4月4日～5月31日



# 全国産業安全衛生大会が閉幕

## 労災防止への決意新たに

中 災 防

仙台市内で3日間にわた  
り開かれていた中央労働災  
害防止協会の「第75回全国  
産業安全衛生大会」と「緑  
十字展2016」が、21日  
に閉幕した。会期中には、  
大会式典に当たる総合集會  
に加え、今回から新設した  
防災・危機管理分科会をは  
じめとする計12分科会で、  
安全衛生に関するシンポジ  
ウムや事例報告を実施。全  
国各地から集結した約1万

人の参加者が労働災害防止  
に向けた決意を新たにした。  
全国産業安全衛生大会  
は、労働者の安全と健康に  
関する日本最大規模の大  
会。仙台では17年ぶりの開  
催となる今回は、「築こう  
未来へ 安全と健康でつな  
ぐ復興の架け橋」をテーマ  
に据えた。

を実施。仙台市のみやぎ産  
業交流センターで開いた防  
災・危機管理分科会（第1  
会場）では、東北地方整備  
局の川瀧弘之局長が「東日  
本大震災の対応―初動の取  
り組みと復興の現状」と題  
して講演した。

川瀧局長は、東日本大震  
災直後から東北整備局や建  
設業界が道路啓開や地域支  
援、復旧・復興に当たって  
きたことを説明。その上で、  
復興道路・復興支援道路を  
はじめとした基幹インフラ  
の復旧・復興について「順  
調に進捗しており、今後、  
観光などを通じて東北を元  
気にしていく上でも大いに  
役立つ」と強調した。一方、  
建設現場での事故が増えて  
いる現状に対しては「せつ  
かく復興を進めていても、



東北整備局の川瀧局長

また、深松組（仙台市）  
の深松努代表取締役社長は  
「東日本大震災 現場から  
の証言 復興に向けての課  
題と提言」をテーマに事例



深松組の深松社長

報告した。この中で深松社  
長は、仙台市と仙台建設業  
協会、宮城県解体工事業協  
同組合、宮城県産業廃棄物  
協会仙台支部が緊密に連携  
した「仙台方式」によって、  
驚異的な速さで震災がれき  
の処理を成し遂げた成果を  
発表。その上で「大地震で  
は全ての地域に救助の手が  
伸びるわけではなく、取り  
残される地域が必ず出てく  
る。その際に地域を支える  
のは建設業しかない」とな  
どと訴えた。

21日にはこのほか、ユア  
テックや仙建工業をはじめ  
とした東北の建設企業から  
も事例が発表された。